

幼稚園の細目

馬場 定一 譯

教育的價值としての文學—子供は言葉に由りて教育的價值たる國語への出發點を以て幼稚園へ這入つて來るのであるが、其語彙は少いし、又極めて不完全な、缺點の多い言葉を使ふのであるから、保母は子供が自分で一層善い言葉を考へ出したり、簡單で正しい直接的な言葉で自分を表はす事が出来る様に適當な方法を以て之を指導して行くのである。故に文學的價值としては或は子供等の年齢に應じて選擇せられたるお囁を話したり、リズムに富んだ詩を讀んだりしてやつて、かくして其お囁の再生や次のステブンソンの詩の如き簡單な詩に由つて自分を發表する様に指導してゆくわけである。

“The friendly cow all red and white,

I lovewith all my heart:

She gives me cream with all her might,

To eat on apple tart.”

「赤い白い可愛い牡牛

私はほんとに大好だ
林檎饅頭をたべるとき

クリームをたんと呉れるから”。

教育的價值としての科學—幼稚園時代の子供の生活に於ては廣い科學の世界と連絡を保つて行く必要は比較的少い。科學は或は其色々な形式に於て子供の小さい生活に觸れて居るかも知れないけれども、而も子供には其事が解つて居ない。生物學の極簡單な形象や、或は玩具を數へることが、お金を勘定するとか云ふ様な日常生活に極僅かに適用せられて居る美術の如きものは子供の注意を惹き得る殆んど總ていあろう。保母はかう云ふ接觸點から出發して植物生活の色々な現象や動物生活の極簡單な分り易いものを觀察したり注意したりする事に導き、又數や形態に關する簡單な要素は遊戲中に任意的に發達して行くものである。幼稚園に於ける方法は自然科學に關する限りは特殊な専門的な訓練は避けられた方がい

い。例へば恰も種子が後になつて發芽する爲に之を播くべき土の用意をするに過ぎないのである。言換へれば自然の儘に於ける物を觀察する態度を作るのである。即ち其周圍が提供して呉れる機會を以て生活體に對する同情ある興味や其生活の場所、習性等に資する知識を子供等にしみ込ませるに止めて、更に進んだ特殊な訓練や教授はもつと子供が年をとる迄待つべきである。

教育的價值としての藝術—子供を教育的價值たる藝術に接近せしめるには色々な方法がある。繪に對しては日曜附録を喜ぶ所から轉じて子供の興味を惹きつける様な美術的價值のある繪や題目に導く事が出来る。大きなクレヨンや毛筆と水繪具を以つて、未熟ではあるが效果ある自己發表の手段たる繪畫的表現の小さき緒を作り得るものである。塑像的材料たる粘土を以て何かを作り出さんとする子供の努力は、美術的満足と云ふ方面からすれば或は遠く離れたものであるかも知れぬが、子供にとつては原始的の希望に合致するものである。

音樂が一般に子供の興味に訴へる事は今更論ずる必要なきまでに認められて居る事實である。リズム

や音樂の訴に對して全く無關心な子供が稀にはあるが、又一方には音樂的發表に接する時はいつでも涙の中に溶けこんで仕舞ふ程音樂の効果に感じ易い子供も偶にはある。經驗に由れば、無關心な子供も感じ過ぎる子供も(勿論正常な子供も)歌を以て自分を發表する事が間もなく出来るものと云ふ事が分る。保母は子供の此リズムや音樂に對する本能的愛には聲樂や器樂を以て應ずるのであるが、中には子供の一割乃至其以上も全く旋律や調子に合せる事が出来ないものがある。之はメロディーに自分の聲を合せ様としても擱へ所が無くていつも茫然して居る爲に聲が調はないのであるから、保母は單に極簡單にして同時に良いメロディーを選択するといふ事丈で始めないで、子供等が自分自身を音樂的に見出す様に助けてやる事に注意しなければならぬ。全メロディーを一綴字で歌ふハンミングをやらせたり、メロディーを弾いて居る時に子供を傾聽させる事に誘導する事等は共に子供の聲を調節する上に大なる助となるものである。耳は聲と共に訓練をする必要のあるものであつて時が経つに従つて子供等はメロディーを弾いて居る時に其歌が何であるかを發見し

て非常に喜ぶものである。

歌の本や種類は今日非常に澤山あるので、保姆は其選擇に方つて子供に音楽の不消化を起させる虞がある。半分しか解らない様な歌を澤山教へるよりは僅かでも注意深く選ばれたる歌を教へる方が遙かに勝つて居る事を記憶して居なければならぬ。

一旦子供の聲が調へられてからは新しい歌やメロディーは意外に早く攫へられるもので、殊に、一般にさうであるべき筈ではあるが、初めて雪が降つたとか、大工や鍛冶屋を訪問した時とか、初めてタンポポが咲いたとか、或は又人形が初めて出来たとか云ふ様な經驗を現はす爲に新しい歌を用ふる時は之を覺える事の早いのに全く驚かされるのである。

單純なリズム運動から完成した簡單なダンスにうまく進んだ時に子供の遊戯にリズムゲームを加へる事は當を得た仕方ではあるが、此處で最も注意しなければならぬ事は、他の仕事と同じ譯であるが、子供の年齢に應じた活動の範圍に止むる事である。

教育的價值としての勞役—小さい子供は人工的な抑制や習慣上の制肘を受けないならば、假令其名が如何に賤しくとも勞役に對しては著しい興味を感ず

るものである。大工が家を直しに來た時には普通子供が其傍に近寄る事は許されないものであるが若し其道具を使はせて貰ふか又は一寸した事でも手傳はせて貰へれば其喜は之に越すものはないのである、或る五つになる男の子が、今まで遊んで居た玩具を捨て、自分の庭から飛び出して長い夏の晝中を土運ツチハコビの舟に乗つて遊んで居たのであつたが、夕方歸つて來て其母に、如何にして其人に「手傳つて」あげたかを話した時の顔は實に喜びの輝に満ちて居て何時までも忘れられないものであつた。

子供は早くから勞働に對する信賴の芽ざしを持つて居て年と共に其生長を見るものであるが、幼兒期に達すると共に既に其朦朧ボヤヤリした意識を現はすものである。幼稚園に於ける勞役に關する遊やゲームは幾分かこの意識を明かにし之を深くする傾がある。

勞役的活動は其範圍が極めて廣いから幼稚園時代の子供には其中から極簡單にして基本的なものを僅かしか適用する事が出来ない。子供は未だ現今の錯綜せる機械を見分け且つ之を理解する丈に生長はして居ないのであるから、大規模の製靴工場や今日の精鍊せられたる様式の製粉工場に連れて行く事は未

だ準備の出来て居ない經驗を押し付ける事になつて従つて却て混亂に導く事になるのである。而して保姆は時々次の様な事を思ひ起さねばならぬ。「子供は幼稚園を終つてから後に色々澤山に學ぶべき機会があるのだから、而して其時になれば充分に消化も出来又同化もされるのだから、それで満足して居なければならぬ」。

人類の原始時代に於ける、其種族に役に立つた基本的の勞働は、子供が眞に之に信頼して居る所であつて其興味と注意とを喚起し且子供の現在の了解力に適應して居るものである。故に幼稚園では農夫、大工、鍛冶屋若し境遇が許すならば鑛夫等の仕事を取扱ふのが至當である。又場合に由つては、少し大きい子供には單に勞役の現場に接觸せしめる丈に止めずして其或ものに就いては簡單なる方法に於て之を實行せしめる事が出来る。大工の道具を試みる事は大工の仕事を見せた後に出来る事であるし、又、レーキやホーを使つたり、植える事や草を取る事等は小さい庭で行へば、子供等は農夫の仕事に觸れる事に於て非常に活氣付くものである。麥を粉に碾く事は在來の咖啡臼でさせれば年上の子供の中で出来

る範圍の事である。近頃では家事科をやつて居る學校の子供等は此粉を以てパンを焼く事を大變に喜んで居る。クリームヲ搔き廻してバターを作る事は在來のクリームホイップとガラス鉢とさへあれば子供等で簡単に容易く出来る事である。子供等の碾いた粉でパンを拵へさせて、それに子供等が實際に作つたバターを塗つてやれば子供等に幸福な永き思ひ出となる食事を調へる事が出来る。

一部の幼稚園では流行して居る事であるが、もつと後年になつてやらせるのが適當だと思はれる仕事を子供等に強ふる事は批難せざるを得ない事である。教育事業に興味を持つた一婦人が或る幼稚園を參觀した處が、「子供の仕事です」と云つて果物の鐘詰の鉢を六七個、誇らしげに示されたのであつた、此婦人は、貯藏の方法に於て中々に經驗を持つて居るのであるが、是等の目を惹くガラス瓶を眺めて疑惑の念が起つた。「是は子供が拵へたのですか?」「ハイ」婦人は桃と梨とを見て「更に尋ねた、「子供は果物を剝く事が出来るのでございますか」「イエ、どうしまして、着物を汚さないでは出来ないのですもの、色々問答の結果、眞實ホントニに子供が拵へたのではな

くして、單に果物が煮えて居るのを見て居たに過ぎない事が分つた。而も此のお上手のない保姆は自分でも「子供が拵へたのです」といふし、子供にもさう言ふ事を許して居るのである。是は、不知不識さうなつたのではあるが、疑もなく不正直なやり方であつて、今は幸にもう無くなつて居るが、曾て所謂幼稚園の或る階級でクリ、スマスウオークの或種のものがなされた事があるが、夫と全く同一の型のものである。恁麼事は其道德的效果は無論絶無であるといふの外は無く、其教育的見界よりの價值は零である。何となれば、數へる事、重さを計る事、煮る事等の手段を支配して居る法則は總て小さい幼稚園の子供の了解以上の事であつて、小學校以上の時代の子供に適した事である。家庭に於て子供は、之等の手順に仲間入をする事を喜ぶと主張する場合もあるが、其場合其經驗は殆んど全く其玩具を以て之を模倣する事に由るに過ぎない事を記憶しなければならぬ、實際其仕事に事實携はるのではないので、よくさうした所ですぐ疲れて仕舞ふ筈である。

斯くて吾々は、學校の教課の基礎たる是等の大なる教育價值は、小さい乍らも子供の經驗や興味が、

自然的に之に作用するものである事が解る。従つて吾々幼稚園の細目は、子供等の經驗が是等の教育的價值と關係を保持し得る點より出發して、其細目の排列は單純であつて、其基礎を子供の一般的活動の上に置くやうにしなければならぬが、又一方には斯の如くにして「幼稚園から大學迄を通して總ての教育的手段には、一貫した聯絡の一筋の絲が貫かれて居る」といふフレーベルの夢を、幾分か實現しつゝ、一つの連續して居る教育的鎖の第一環を形成することが出来るのである。

細目の編成

一 細目の自由な使用

自分の細目を編成する事は若い保姆にとつては重要な研究である。其經驗はあまりに限られて居る上に、色々起つて來る問題や偶發事項に應ずべき必要なる手段や知識が餘りに貧弱なので、應急な直觀的な仕方では、總てを正しく處理して行かれるとは信ずる事が出來ない、斯くの如くに其經驗が限られて居る爲めに子供と、子供の要求の事を忘れて、時に論理的な方法に陥る様な危険に走り易いのである。併し乍ら、斯る危険はあつても年の進むと共に發達

し得て遂に形式の調つた細目を持つに至る事は緊要の事である。併し其細目は伸縮自在のものでなければならぬ。保母は豫期しないし、従つて其爲に何等準備もしない事で、時々價値のある經驗が子供等に起る事がある。此價値ある要素を含める經驗が子供等を捕へたと知つたならば、保母は、注意深く作られた自分の細目でも之を傍に置いて、此の現實目前の經驗を有用に使用する事である。鐵は其熱くなつて居る時が打つべき時である。

(a) 消極と積極の二つの例、

消極と積極の二つの例を用ひて以て吾々の教訓としよう。共通の細目が勢力を持つて居た或る町で、學校を出て間の無い一助手が、或朝、幼稚園に出かけて行くと、自分の組の子供等が、學校から程遠からぬ廣場で、偶々其處に落れて居た穀物に一群の鳩がおりて居るのを熱心に見て居る。暫時の間立止つて子供等と一緒にこの興味ある出來事を觀察して居たが、フト此事が其胸に或る暗示を與へたので、其考を進めつゝ幼稚園に急いだのであつた。それから溢るゝ熱心を以て其主任の所に行つて「今朝私の組で『母の遊嬉の繪』の "Beckoning the Cigcons, を使

つてもいゝでしやうか? 子供等が大變面白がつて鳩の群を見て居ましたから、この繪を見せるのに丁度いゝ時機だと思ひますし、それ鳩の簡單なお話を聞かせるにも、都合のいゝ時だと思ふので御座いませうが」と聴くのであつたが、主任は頗る冷淡な不承のおももちで助手を見て、「此週から *The Fish in the Brook* を始めて居るのじやないの?」と、この主任は、今子供と共に進行して居る仕事の出發點たる金魚をさへ用意して居なかつた事を附加へるならば、此話の教訓は一層強められる事と思ふ。

同じ市での事であつた、或る參觀者が一つの幼稚園に行つた所が、恰度子供等が手に手に七葉樹トチの實を持つて這入つて來て、其を探し出した事情を熱心に話し乍ら之を先生に渡して居る所であつた。保母は笑ひ乍ら、參觀人には竊かに、「今朝の細目に入れたも仕様が無いのだけれど」と囁いて居たが、それから子供等に、何處に落ちて居たのか、之は何處にあつたのだらうなど、問答して、春の頭花の咲いて居た樹を想起させ、更に其實は種子であつて、どの種子の中にも皆生命が眠つて居るのだと云ふ事に導くのであつた。それから子供等を戶外に連出して庭

に其種子を少し播き、更に其樹の所まで行つてもつと其實を拾ひ集めて、其日の終りに、床の上で其日の細目の中の貝並べの代りに使ふのであつた。參觀者は保姆が子供の普通の経験を有益な事に轉ずる様臨機の所置を取つた事を非常に幸福に感じた。

細目の編成に於ける四つの要素

細目の編成には常に考に持つて居なければならぬ四つの要素がある。

一、子供—其要求と經驗

二、仕事の目的

三、此目的を達すべき手段—「題目」として屢々表はさる。

四、過程、

a 子供の要求と經驗

保姆は既に子供の一般の特徴にはよく通じて居る事と思ふ。即ち子供は其活動は任意的であり、感情に由りて導かれ、其生活は個人的の興味によりて限られたる狭い世界に於てするものであつて、其經驗は、環境と機會との結果に過ぎないもので、少しも統御せられて居ないし、集中の力には缺けて居て、其注意は自發的隨意でなくして多く受動的である事

を知つて居る筈である。是等の一般的特徴を知つて初めて保姆が受持つて居る子供等の個性の相違を知る事が出来るものである。併し乍ら細目の編成には子供全體に共通した經驗と興味に由つて導かれなければならぬ。之が爲に保姆は、子供等が幼稚園に入つて来る以前の生活に於ける環境及其感化の形成せられたものを研究する事が必要である。之に加ふるに氣候の變化に伴つて起る興味を以てせねばならぬ。其變化に伴ふ所のものは幼稚園が市部にあるか乃至は都市にあるかに由つて其内容に勿論著しき相違を來すべきものである。尙又吾々の國家的及宗教的儀式祭禮等に由りて起る興味や經驗も附加へらるるを要するものである。

是等の興味及經驗は細目作製に其出發點を與ふるものである。細目の目的は子供の経験を翻譯し、之を訂正し富まし且之を擴大する上に就いて保姆に補導を與ふるものである。

b 教育的目的

保姆は必ず自分の過程の目録となるべき或る定まつた目的を持つ事が必要である。子供の年齢や能力にあてはめた目的を決定する前に、廣い意味に於

ける教育の目的は何であるかを先づ決定しなければならぬ。プラトール時代以來教育の目的は色々に定義せられた。或は倫理的に又は實驗的に、乃至は審美的に、人文的に、社會的に、凡て可能なる概念の全般に渡つて論せられた。是等の各々は恐らく其時代に於て懷かれたる特殊の傾向若しくは其創意者の理想を現はして居るものである。教育の究極の目的は總ての目的を含んで居ると充分に認めらるべきものでなければならぬ。其故に吾々は吾々の目的としては「自己實現」と限定せられる所のものを取る。個人が其眞の自己を實現する事は單に自分自身の力の啓發に由るのみでなく過去及現在の普遍的生命の關與に由るものである。各個人は自分自身に對して責任があるのみならず又其種族の生活へ貢獻する事にも責任があるのである。斯くして彼は與へる事と分前を取る事により自分に普遍的の生命と力を受けるのである。

幼稚園に於ては子供が小さいから斯の如き廣き目的に對して僅かに其端緒を作り得るに過ぎないのである。故に吾々の直接の目的は、一方には肉體の健康と其生長との發達に對して出来る丈完全なる手段

を與へて、正しき道德的及社會的習慣と正しき精神的態度との端緒を確立する事である。是に關しては保姆はフレーベルの命令「子供は其發達の各時代に於て正確に其時代が要求して居る所のものである」を想起し更に之に加ふるに、子供の生長及發育は幼稚園時代を貫して大切なるものであるといふ兒童心理學者の教を以てする事である。

見張た目椅子乗り出して
きく子等の心ふと見て
おどろきぬ吾

(R 子)